

花島公園自然観察会(第2回)

夏の虫を観察しよう！

西野孝法（千葉市）

日時：2025年7月27日（日）10時～12時、天気：曇り時々晴れ

参加者：13家族 48名（大人22名 子ども26名）

担当指導員：伊藤、小川、内島、西野

花島公園観察会は、13家族48名が参加し、身近なところ（花島公園）にたくさん生き物たちが生息していることが確認できた観察会となりました。

＜受付・オリエンテーション＞

9時30分より公園センターロビーにて受付を開始。皆、網とケースを持っていて、観察会への期待が伝わってきます。

オリエンテーションでは、熱中症対策、危険生物（スズメバチ、イラガ）の説明を行いました。



説明を聞く子どもたち

＜花見川沿いの草地で昆虫採集＞

草地に行く途中でオスのニイニイイゼミを採集し、セミの体の構造を説明しました。さらにセミの体を横からつまむと音を出すことを体験していただきました。参加者は、セミの抜け殻を見つけると勲章のように服にくっつけて草地に向かいました。

草地では、参加者全員で丸くなり、中心に敷いた白いシートに虫たちを追い込む採集方法を実施しました。一人では、緑の草に隠れているバッタを探すのに苦労していましたが、シートの上に追い込まれたバッタは姿があらわになり、採集も簡単になりました。シートに追い込まれたバッタやその他の虫たちの種類と数の多さを見て皆「ワー！」と歓声をあげました。その後、採集したムシたちのまとめを行いました。

「身近にこんなにたくさんの虫がいるとは・・・」と参加者は、驚いていました。



草地に向かう参加者

＜室内プログラム：ムシ遊び＞

カナブン（事前に採集済み）にタコ糸をつけて飛ぶ様子を見るムシ遊びを行いました。タマムシ、ノコギリクワガタも同様に飛ばして、飛び方の違い、体の構造の違いを説明しました。ノコギリクワガタにつけたタコ糸が取れて脱走する場面もありましたが、タコ糸なしの飛ぶ姿を実際に見る良い機会となりました。

ムシが苦手、初めてカナブンを触る参加者も最初は、恐る恐るタコ糸をつまんでいましたが、カナブンの飛ぶ姿を見て笑顔がこぼれていきました。



シートに虫を追い込む

＜まとめ・感想＞

参加人数が多いため、参加者全員が協力してムシを取るプログラム（追い込み）を行っている。参加者にとって、通常のムシ取りは、家族単位なので、とても貴重な体験になっている。また、室内プログラムでの参加者の笑顔は、暑さを忘れさせてくれる。

